

郡市 医師会より

地域医療を支え、次世代へつなぐ

柏崎市刈羽郡医師会

理事 阿部 亮



柏崎市と刈羽郡刈羽村の人口は、令和7年11月30日現在で合わせて79,217人であり、過去5年間で約7,000人減であり、他の多くの地域と同じように人口減少、少子高齢化が進んでいます。

柏崎市刈羽郡医師会は、柏崎刈羽地域の地域医療を支えるべく活動しており、会員総数は92名で、その内訳はA会員38名、B会員46名、D会員8名です。A会員のうち65歳以上が22名を占めており、以前、先輩の先生が書かれていたように少医師高齢化の状況であり、地域医療体制の堅持と次世代への継承が重要な課題となっています。

限られた医師会員数ではありますが、各種委員会活動も活発に行われています。当医師会では健（検）診事業を担っているため、健診委員会、学校・母子委員会、肺がん検診委員会、胃がん・大腸がん検診委員会、子宮がん・乳がん検診委員会で各種健（検）診の事業計画、事業報告、健（検）診項目の検討などが行われています。会報委員会は年4回の医師会報の発行を、総務委員会では、医師会員の福利厚生や休日・夜間急患センター協力医の調整などを行なっています。

さらに、種々の物価高騰に伴う経費上昇など医師会運営にも懸念が生じる中、今年度より当医師会がオープン病院事業法人の要件を満たし、税制優遇を受けることができるようになりました。安定した医師会運営につながることを期待しております。

市内の医師不足に対応するため、柏崎市は新潟県、柏崎総合医療センターと連携し、令和3年度に臨床研修医を対象にオンラインを基本とした海外留学や国内研修を支援する制度を創設していま

す。この制度の運用が始まって以来毎年、柏崎総合医療センターには研修医が着任しており、令和7年4月には新たに6名が着任、現在は10名を超える研修医が日々経験を積んでいます。市内の他の病院、診療所も研修医を受け入れ、地域全体で医師確保につながるよう取り組んでおり、若い医師の地域への定着や関わりの継続を願っているところです。

当医師会では学術活動も盛んです。令和6年度は、当医師会が共催する学術講演会が10回（総参加者数209人）開催されました。内容は多岐に渡り、地域で働く医師会員の資質向上に役立っております。特に、令和7年11月1日には日本医師会生涯教育講座を初めて柏崎市で開催させていただきました。メインテーマは「新潟医療人の育成について考える：医学生・研修医・新人を迎えるとき～医学教育の最前線から～」であり、地域で働く医療人を地域で支え育成していくことの重要性が議論されました。会の終わりには、新潟県厚生連柏崎総合医療センター副院長であり、新潟大学総合診療学講座特任准教授でもある丸山正樹先生より、「臨床研修病院ことはじめ～柏崎での Show Case～」と題した特別発言があり、柏崎地域における臨床研修病院の取り組みが紹介されました。会場参加者24名、Web参加17名が集まり、地域医療の将来について考える貴重な機会となりました。

当医師会は、これらの活動を通じて、地域住民の健康増進、そして未来の地域医療を担う人材の育成に引き続き貢献してまいります。